インターネット社会へのSTEP…
どこでもオフィスと同じ様に仕事ができる

どこでもネットワークが使える社会

2001年急速に普及を始めたブロードバンド（高速定額制インターネット回線）。高速通信と通信料金定額制を実現したこのブロードバンドは、TV電話や動画の配信などの新しい使い方を可能にし、さらに複数のパソコンと接続しても追加料金不要という効果を生みだしました。そして無線LANもこのブロードバンドの波及により、配線接続の手間や工事費を節約する有効なソリューション（解決方法）として注目されるようになりました。

こうした無線LANユーザ増加を背景に、日本中で無線LANを使った新しいサービスが広がっています。ホテル、空港ロビーをはじめ、さらには鉄道やレストラン、喫茶店など公共の場でも来客者に無料でインターネット回線を開放する店も現れました。これなどは草の根的な社会現象とも言えるでしょう。

しかし単にインターネットに接続できるだけでいいのでしょうか。一番使いたい情報はオフィスにある独自の情報ではないでしょうか。全ての情報を持ち歩くことは不可能です。例えば訪問先で予期せぬ質問や急な要求（仕様や納期）の変更があった時にも、その場でオフィスにある情報を確認して対応できたらどんなに顧客サービスの向上が図れるでしょう。出張先や移動中でもオフィスと同じような環境が得られるようになり仕事の効率が大きく向上します。

今、世界中で「どこでもネットワークが利用できる社会」が到来しようとしています。

どこでも誰でも使えるために必要なこと

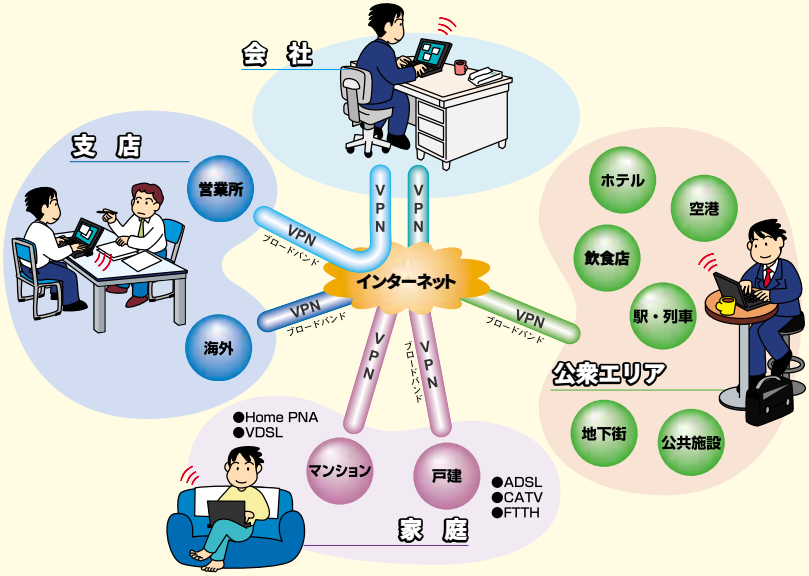
さて、自宅でも、オフィスでも公共の場でも無線LANが使えるようになると、全てが共通で使えることが必要になってきます。そのため、公共の場で提供されるサービスの多くは、世界的な標準規格として認定されている無線LANカードを使うことを利用者に求めています。

もう一つ重要な点は、会社の機密情報を利用するときの安全性です。情報の受け取り手にその資格がある（社員）ことの確認と、データを傍受されても簡単に解読されないような暗号化が必要になってきます。そのどちらも技術がどんどん進化していきます。

また、ソリューションが必要になってくるのは無線LANのみにとどまりません。情報量や利用者数の拡大にともないネットワーク機器全体の機能向上や高速化が進みます。ノートパソコンを持ち歩くビジネスマンのためには、電源の無い場所で使える周辺機器も必要でしょう。さらに、映画やビデオなどの動画を利用すると、それらを記録保管するために膨大な記憶容量を持った装置が必要になってきます。

当社は、こうした時代の要請に応えるための高度な技術を誰でも使える製品やサービスにして提供することで、どこでもインターネットが利用できるネットワーク社会の発展に貢献してまいります。

どこでも手軽に通信できるインターネット社会



会社や家庭はもちろん、駅や飲食店といった公衆エリアでも手軽にインターネットを利用できる環境が整いつつあります。無線LANや安全性を確保した通信技術、世界中どこでも使えるように標準化された通信規格はネットワーク社会をより快適なものにしています。どこでも、いつでも手軽にインターネットを利用できる社会により、私達の生活はますます豊かなものになるでしょう。

※VPN：Virtual Private Network　拠点間を専用線のように相互に接続し、安全な通信を可能にするセキュリティ技術